

HOMAS 日本語版 ニュースレター	No. 60 平成22年(2010年)7月31日発行 北海道・マサチューセッツ協会 会長 森本 正夫
<i>Hokkaido Massachusetts Society</i> 北海道・マサチューセッツ協会	発行所 〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館12階 TEL011-231-3392 FAX011-231-3666 発行人 中垣 正史 E-mail homas @ siren.ocn.ne.jp

北海道開拓の基礎を築いた指導者たち⑮

ケプロンの通訳～開拓使判官 湯地定基の生涯と業績 ー薩摩藩第二次米国留学生、そして黒田清隆のもと開拓使事業に尽力・根室県令ー

■まえがき

北海道の近代化は、明治政府の開拓使設置(1869年<明治2年>7月)により本格的にスタートします。初代判官島義勇(1822-1874)、第2代判官岩村通俊(1840-1915)の先見の明、続く黒田清隆(1840-1900)開拓使次官(のち長官)の指導力と、黒田の招きのよる多くの米国の先進技術・教育の専門家たち、開拓使顧問のホーレス・ケプロン(1804-1885)、鉱山・地質測量のベンジャミン・S・ライマン(1835-1920)、農業牧畜のエドウィン・ダン(1858-1931)、高等教育のウィリアム・S・クラーク(1826-1886)、ウィリアム・ホィーラー(1851-1932)、デヴィッド・P・ペンハロー(1854-1910)・・・などのすぐれた指導力により、各分野の開拓事業が進められたのでした。札幌農学校も、クラーク博士一行を迎えて1876年(明治9年)8月14日に開校しています。

薩摩藩(現在の鹿児島県)は、明治維新と日本の近代化に有為の人材を多く輩出しています・・・西郷隆盛、大久保利通。そして特に、蝦夷から北海道への転換期の北海道近代化の推進力となった開拓使(明治2年7月～明治15年)時代の指導者の多くは、薩摩藩の出身でした・・・黒田清隆、村橋久成、永山武四郎、時任為基、調所廣丈、湯地定基、岡田安賢、河島醇、山之内一次・・・。

今回は、この北海道の開拓事業推進に大きな足跡をのこした一人、湯地定基(1843-1928)の生涯と業績をたどってみたいと思います。彼は、米国留学帰国後開拓使に出仕、ケプロンら外国人顧問の通訳を務め、その後、七重勸業試験場長、根室県令などを務めています。その間、漁業・農業の改善普及などに取り組み、特に馬鈴薯の栽培を勧めて、特産品にまで事業を発展させたので、芋判官・芋県令ともいわれて、その生涯を北海道の洋式農業普及をめざして誠実に歩んだ人といえます。

■湯地定基の生い立ちーアメリカ留学の薩摩藩士

湯地定基(ゆちさだもと)は、1843年(天保14年)9月4日、薩摩国鹿児島郡鹿児島泉町で、薩摩藩士湯地定之・貞の長男として出生。別名「治右衛門」。父定之は、進歩的な人で、長男・3男をアメリカに藩費留学させ、7人の子の末子「静子」(後に乃木希典夫人となり、大正元年9月13日、明治天皇<7月30日崩御>の御大葬の日に、希典夫妻殉死)も10歳で友人の開く塾に入れています。

1869年(明治2年)8月、24歳のとき、仁礼景範・江夏壮助・種子島敬輔・吉原重俊らと共に薩摩藩第二回留学生としてイギリスに渡り、1870年(明治3年)9月藩命によりアメリカに渡り、マサチューセッツ農科大学へ留学、クラーク博士(後の札幌農学校初代教頭)の薫陶を受けて農政学を学び、

ます。ケプロンの記録によると、ニュージャージー州のブルンスウィック大学でも学んだようです。そして、翌1871年(明4年)12月27日帰国します。

■開拓使出仕—ケプロン一行の通訳として活躍

1872年(明治5年)1月、湯地は、薩摩藩出身の尊敬する先輩黒田清隆開拓次官に招かれて、開拓使8等として出仕。開拓使顧問として来日していたホーレス・ケプロン(滞日：1871・明4年8月25日～1875・明8年5月23日)と同行のアンチセル、ワーフィールド、エルドリッジ一行の通訳の任に当たります。湯地は、以後3回に及ぶ、ケプロンの長期北海道出張すべてに通訳として随行したといわれます。ケプロンによると、湯地は口数の少ない、きわめて謹直な人柄であったようです。

まず、1871年(明治4年)8月～10月、アンチセルとワーフィールドの開拓予備調査のため北海道巡検。一行は、函館から恵山岬をまわって、噴火湾を横切り室蘭に渡り、海岸沿いに勇払川、千歳方面を通って札幌着。札幌附近が全道の首府たるべき地点であることを確認します。約2ヶ月間馬に乗って巡視し、豊平川架橋(当時は明治4年4月の仮橋)の急務、製造工場や水車の設置場所の選定、札幌室蘭間の道路計画なども含めたものでした。

ケプロン自身の第1回目の道内巡検は、1872年(明治5年)5月～10月。東京湾を出帆して、函館・室蘭を経て札幌に到着。札幌の「開拓使本庁舎」(～6年10月落成)の建築状況や製材場その他の諸工場の所在地(現在の大通り東1・2丁目附近全体の広い地域)を検分、さらに石狩・小樽を視察し、室蘭・函館を経て帰京しています。

第2回目の道内巡検は、1873年(明治6年)6月～9月。黒田の指示を受けて、東京の開拓使官園の試験成果を移植するために設置する、七重・札幌官園・試験場の調査、その輸送方法に関する現地調査、牧畜・耕種の適地調査、鉾山開採方法に関する調査などでした。函館・七重官園・室蘭を経由して札幌着。札幌の農作・工場を検分後、ライマンを伴って豊平川・石狩川の調査、石狩・当別視察、小樽・余市を経て岩内の茅沼炭鉱を検分、長万部・函館を経て9月に帰京しています。

第3回目の道内巡検は、1874年(明治7年)5月～8月。七重官園における果樹の点検と育成方法、室蘭に設置すべき木挽器械所の調査、新室蘭・札幌・小樽に予定している殖民(屯田)地の調査、札幌の種畜場・果樹・堤防の検分調査、ホロムイ・岩内石炭山の石炭採掘・運搬方法、その他鉱物の探査、浦河管内の牧畜・開墾の適地調査、漁業改良の方法調査など多岐にわたっています。函館・室蘭を経て6月札幌着。札幌近郊・小樽を調査。8月札幌発、勇払・浦河を経て、函館へ、そして8月末帰京しています。

これらの長期にわたる北海道巡検、そして高く評価されている「ケプロン報文」等は、実は、通訳としての湯地定基の協力なくしては、決して結実しなかったものと思われます。湯地の果たした役割と功績はきわめて大きなものがあります。

■七重の官園—馬鈴薯の原種を移入して、はじめて栽培に成功

ケプロンの帰国後、湯地は、1875年(明8年)2月、七重開墾場(現、七飯町)の経営にあたり、洋式農業の普及に努めます。1876年(明9年)7月、はじめて北海道においてになった明治天皇御巡幸の案内役も務めており、洋式農具の使用法をご覧にいれ、チーズやアイスクリームなどを差し上げたといわれます。その時に植えたアカマツ並木が、現在も国道5号線沿いに見ることができます。

くなお、1941年(昭和16年)、照宮成子内親王殿下が、大沼にお成りになったのを記念して補植を行っています。七飯町開基100年(昭和52年)の調査によると、樹齢100年以上のもの808本、40年以上のもの345本、そのころ補植されたもの371本で、合計1,525本のアカマツ、クロマツが植えられていました。また、この松並木は1975年(昭和50年)、七飯町の町木に指定されています。>

1877年(明10年)4月、札幌農学校の任期を終えたクラーク博士が、帰国を前にわざわざ七重に立ち寄ったのは、かつての教え子「湯地定基」を激励するためでした。湯地は、1878年(明11年)2月には牧場などの実際調査のため根室へ出張しています。同年7月には七重勸業試験場長になります。湯地は、米国マサチューセッツ州産のリンゴや芋(馬鈴薯)の原種を移入して、この寒冷の地ではじめて栽培に成功しています。後に、七重町が「男爵いも発祥の地」となる原点はここにあります。またこの間、アメリカ留学で体得した新知識により、農業畜産の改善、農産物の加工、水車整備、馬具・農具の製造を行い、多くの伝習生を育てています。その中には、アイヌの子弟もいました。1880年(明13年)には、札幌農学校1期生の小野兼基、柳本通義を招いて、育種や牧場経営を担当させて、みごとに試験場の成績をあげたといわれます。



函館市五稜郭公園裏の「男爵薯を讃ふ」碑

碑文 北海道帝国大学総長 伊藤誠哉書

(表) 男爵薯を讃ふ

(裏) 男爵薯は明治四十年頃時も函館船渠会社社長男爵川田龍吉氏がアメリカ原産のアイリッシュユコブラーを七飯村の農場に輸入したもので輸入者に因んで男爵薯と称したものである

この薯は極めて早熟な上に病害に強く本道の風土にも適するもので約四十年の間に全道に普及栽培されその声価は全国的に高まるに至った

このように本道農業経営とわが国食料対策の上に安定性を築いた功績は広く世に紹介されてよいと思ふ

ここに渡島管内に於けるこの薯の生産に係わる者が図って男爵薯保存協会を設立し事案の一としてこの碑を建てその由来を明らかにすると共に川田男爵の功績を讃え永く感謝の意を記念するものである

昭和二十二年五月建立 男爵薯保存協会

<昭和二十二年九月二十日除幕式 当時は五稜郭公園正面入口付近に建立>

■ “根室のいも県令” ―初代根室県令(知事)

1882年(明15年)2月、開拓使が廃止となり、北海道に函館(県令時任為基)・札幌(県令調所広丈)・

根室の三県が置かれた時、湯地は、根室県令(知事)を命ぜられ赴任します。当時の根室・北方領土の人びとは、食糧不足に悩まされていたので、漁業中心の経営はきびしいため、着任早々部下に命じて洋式農業の普及に力を入れます。しかし米麦はもちろん、野菜類も他所に求めなければならないほどの寒冷な地であり、食糧供給のための海路も不安定でした。前任地七重で、ジャガイモが寒冷な北海道によく適することを熟知していた湯地は、当時五升芋と呼ばれていたジャガイモの種をもって各戸を回り、農具を与えるなどして強制的に奨励したといわれます。人に会うと、口ぐせのようにジャガイモの栽培を勧める県令の熱心さに、しぶしぶ重い腰を上げて試作してみると、海霧の多い根室でも比較的収穫がよかったようです。冬季間の食糧事情の緩和に役だっただけでなく、その後根室地方の特産品にまで成長させたのでした。こうして、人びとは「五升芋」奨励に熱心な県令を「芋判官」と呼ぶようになります。

湯地は、またコンブ・サケ・マス漁や魚かす製造の改善、千島北部の警備、アイヌ移住などにも尽力したので、こうした彼の功績を記念して、根室には、定基町(さだもとちょう)という地名が残っています。根室滞在は5年間。北海道で一番古い公共図書館の設置にも尽力しています。

■北海道庁勤務時代

1886年(明19年)三県廃止。北海道庁の誕生により、湯地は、北海道庁理事官(副知事相当)に就任します。北海道庁は、新しい農村建設のための植民選定・区画事業推進の資料調査を必要として、翌年、初代北海道庁長官岩村通俊は、湯地定基に2ヵ年の欧米派遣を命じます。湯地は、小野兼基、堀宗一(クラーク博士の通訳堀基の弟)を随員として、1888年(明21年)1月出発、ベルリンを拠点に、ヨーロッパ各国の農村や植民政策・甜菜農業などを視察。次いでアメリカに渡り、特色ある植民地の区画や処分方法を調査、ジョンスホプキンス大学では農村発達史の講義も受けて、1889年(明22年)9月に帰国します。植民地選定事業は、湯地の調査報告や札幌農学校教授佐藤昌介らの献策を受けて、内田瀨(きよし)らによって本格的な区画策定、移民導入がすすめられたといわれます。その最初が奈良県十津川の大洪水による樺戸郡新十津川集団入植でした。こうして、湯地によって路線が敷かれて、植民地開発が進められていきました。

■栗山で農場経営

湯地は、1890年(明23年)、48歳で、元老院議員に転じ、次いで貴族院議員に勅撰されますが、北海道への思いは強く、1893年(明26年)、東京の所有地を売り払って、私費を投じて空知の栗山に280ヘクタールの貸下げを受けて、自宅を移して農場を経営、洋式機械を使って開墾をすすめ、開拓に成功しています。天照大神を祀る湯地神社を創建、地域住民の無事と繁栄を託しました。湯地は小作人たちに深い愛情を注ぎ、太平洋戦争後の農地解放まで農場経営を続けました。小作人36戸は、今も「湯地部落」として、豊かな農村となっています。

■晩年

湯地は、晩年を東京で過ごし、1928年(昭和3年)2月10日死去。享年84歳。8男2女があり、栗山町の農場は子孫が引き継ぎ、「種子用ハウレンソウ」の栽培で有名になったといわれています。

<主な参考文献及び参考資料>

□「北海道の歴史」 榎本守恵著 北海道新聞社 □「星霜」2 北海道史 明治2(1875~1885) 北海道新聞社編 □「北海道歴史人物事典」 北海道新聞社 編 □「静寂の声—乃木稀典夫妻の生涯」 上・下 渡辺淳一著 文芸春秋社 □「北海道開拓功労者関係資料集録」(北海道) □「札幌事始」 さっぽろ文庫7 札幌市教育委員会編 □「開拓の群像」 中 北海道 □「根室・千島歴史人名事典」 根室・千島歴史人名事典編集委員会 編 □七飯町 資料 □ 栗山町 資料 □ インターネット資料など

平成22年度 第1回 国際交流ランチセミナー記録

～米国ニューイングランド各州の学校の先生方 22 名との昼食交流会 ～

日 時 平成 22 年 7 月 4 日(日) 12 時 00 分～14 時 30
会 場 北大構内 レストラン「エルム」 (札幌市北区北 11 条西 8 丁目)

<ゲスト>

Five College Center for East Asian Studies
2010 NCTA Japan Study Tour Program Participants

(NAME)	(SEX)	(SCHOOL)	(STATE)	(SUBJECTS)
1 Maria Avery	F	Long River Middle School	Connecticut	American History,
2 Kathleen Bridgewater	F	Erving Elementary School	Massachusetts	World geography,
3 Laura Cannamela	F	Ichabod Crane High School	New York	Art,
4 Rria Castillo	F	Hamilton Central School	New York	English, Social Studies,
5 Madelyn Cornish	F	Philip W. Sugg Middle School	Maine	Literacy, Social Studies,
6 John Donegan	M	Chamblee Middle School	Georgia	World studies,
7 Peter Elliott	M	Classical High School	Rhode Island	American/British Literature,
8 Caroline Foster	F	The Derry field School	New Hampshire	Asian & European History,
9 Amy Jerome	F	Hamilton Central School	New York	Library Media Specialist,
10 Susan Kopecki	F	Highcrest Elementary School	Connecticut	Art,
11 April Lemmings	F	Philip W. Sugg Middle School	Maine	Social Studies & Language Arts,
12 Susan Ann Mathison	F	Oyster River Middle School	New Hampshire	World Geography,
13 Susan Mion	F	Danbury High School	Connecticut	Asian Studies, Psychology,
14 Mary Moyer	F	The Derryfield School	New Hampshire	Study Skills, Academic Support,
15 Denise O' Toole	F	<No currnet school>	Massachusetts	Social Studies,
16 Lisa Parks	F	Kenmore West High School	New York	Art, Photography,
17 David Patt, Jr.	M	Irondequoit High School	New York	Global History, World Literature,
18 Angela Singer	F	Melrose High School	Massachusetts	Adv.Placement English Language
19 Garry Sousa	M	Tabor Academy	Massachusetts	History, Social Science,
20 Janet Zwack	F	Great Oak Middle School	Connecticut	Language Arts & World Geography,

Study Tour Co-Leader Ms. Maureen Stephens
Ms. Yuko Takahashi

概要: この国際交流ランチセミナーは、2001 年(平成 13 年)から、広く多国籍の北海道在住外国人をゲストとしてお招きして、国際交流や異文化理解の楽しい時間を共有しています。今回は、ファイブカレッジセンター東アジア研究プログラムの北海道教育視察団(22 名)の先生方をゲストとしてお迎えしました。米国マサチューセッツ州・コネチカット州・ロードアイランド州・メイン州・ニューハンプシャー州・ニューヨーク州・ジョージア州からの先生方です。一つのテーブル(6～8 名)に 3 名のアメリカ人という豪華な国際交流の時間となりました。このセミナーは、今回で 27 回目です。(通訳は、岩崎修子さんをお願いしました。)

今回は、あの火山研究の第一人者、岡田弘先生の英語講義の予定もあり、時間も限られていましたので、リーダーと小学校・中学校・高校の先生各 1 名の短い挨拶だけをお願いしました。ここにご紹介します。今回の参加者は、合計 58 名でした。

モーリン・スティーブンス (Ms. Maureen Stephens) <代表>

皆様こんにちは。私は、ファイブカレッジセンター東アジア研究プログラムの代表として、そしてこの研修旅行に参加の先生方を代表しまして、この国際交流ランチセミナーにご招待いただきましたこと、心よりあつくお礼申し上げます。

そしてまた、今日ご参加のホストファミリーの皆様には、特に感謝申し上げます。昨晚、私と裕子（共同代表）は、ホテルのロビーで、ホームステイから戻ってくる先生方を待っていました。先生方のすばらしい経験をお聞きました。先生方が、それほど多くない時間をいっぱいに使って、ホストファミリーと一緒に、ボウリングをしたり、お寺めぐりをしたり、食事をたのしんだりなど、ほんとうに信じられないくらいいろいろなことを楽しんだということでした。皆さん、ほとんど寝ていないのではないかと思います。

私の札幌訪問は、3 回目です。毎回、ホームステイをさせていただきました。先生方にとっては、このホームステイが、日本でのすべての経験の中で最高に価値のあるものだということを申し上げておきたいと思います。今回も、まったく同じです。先生方は、このすばらしい札幌での経験をアメリカの多くの生徒たちに伝えるはずですよ。これこそ、すばらしい国際理解・国際交流になると信じます。ありがとうございます。

私は、また、Mr. Nakagaki が、毎回、札幌日程のすべてをアレンジして下さったことにお礼を申し上げたいと思います。だれも出来ないくらい大変な努力をしていただきました。もう、私からのメールをこれからはばらく忘れてください！（冗談です・・・） Nakagaki-sensei ほんとうにありがとうございました！

今朝訪問しました、アイヌ文化交流センターで、すばらしい言葉を 知りました。アイヌ語の挨拶で、「イランカラプテ」（こんにちは・いらっしやいませ）は、遠来の客を迎えたときに、相手を敬う気持ちをこめていう挨拶で、「私は、優しくあなたの心に触れさせてください」という意味なのだそうです。

札幌での皆様との出会いで、私たちの心に触れていただいて、ありがとうございます。わたしたちは、ほんとうに、ほんとうに、この札幌でのすばらしい経験に感謝しています。

ピーター・エリオット (Mr. Peter Elliott) <高校の先生>

皆様、こんにちは。私は高等学校のせんせいをしています。まずは、ホストファミリーの皆さんにお礼を申し上げたいと思います。すばらしい家庭でステイさせてもらいました。ここにいらっしやるホストファミリー全員の家庭に行けなくて申し訳ないです。（笑）

先ほど、リーダーのミミさんのおっしゃったことは正しくて、皆ホームステイ中はほとんど寝ていません。（笑） 24 時間、様々な活動をし、いろいろなところに行って楽しい経験をさせていただきました。一生食べきれないほどの「すし」も食べて、楽しく過ごしました。本当にありがとうございました。今日はまた、たくさんの方々と会話を楽しんでいます。すばらしい出会いに感謝し

ています。

スーザン・コペッキ (Ms. Susan Kopecki) <小学校の先生>

私は、小学校の先生を代表してお話します。小学校の先生は私ひとりだけかと思っていたら、もうひとり、Kathleen も参加していました。彼女は6年生を教えていて、私は1年生から6年生まで教えています。教科はVisual Art です。美術を通して世界の文化・社会を教えています。世界の人々がどのように暮らしているのかを子どものころから理解することは大変重要なことだと思っています。私は週に一時間ずつ、400 人の生徒に教えています。ここで見聞きしたことを生徒たちに伝えていきたいと思います。

今日は、このような会にお招きいただきましてありがとうございます。皆様と、おいしい食事と会話を楽しんでいます。

スーザン・マシソン (Ms. Susan Mathison) <中学校の先生>

私は中学校で世界の文化・地理について教えています。札幌に来るまでは心配していました。皆さんとコミュニケーションがとれるかどうか不安だったのです。でも、ここの皆さんはとても寛大で、フレンドリーで、暖かく迎え入れてくれたので安心しています。そして、中学校と高校の学校訪問とホームステイを経験しまして、世界中の生徒、子どもたちは、皆同じであることがわかりました。札幌でのすばらしい経験を、アメリカの生徒たちに伝えたいと思います。みんなきっと興味深く聞いてくれると思います。ほんとうにありがとうございました。



平成 22 年度 北海道・マサチューセッツ協会 事業計画一覧

2010 年 4 月～2011 年 3 月

■会 議

4 月 28 日(水) 平成 22 年度 第 1 回 理事会(14:00)・総会(15:00)

(道庁別館 B1 会議室)

■国際交流セミナー

① 7 月 4 日(日) 第 1 回 国際交流ランチセミナー (12:00 ～ 14:30)

＜北大構内レストラン「エルム」＞

―ファイブカレッジセンター北海道教育視察団(22 名)を迎えて昼食交流会―

②10 月 30 日(土) 第 2 回 国際交流ランチセミナー (11:00 ～ 14:00)

＜すみれホテルレストラン「ルピナス」＞

―他国籍ゲストを迎えて ＜ハロウィーンパーティー＞ ―

③ 2 月 11 日(土) 第 3 回 国際交流ランチセミナー (11:00 ～ 14:00)

＜ レストラン 「未 定」 ＞

―他国籍ゲストを迎えて ＜バレンタインデー＞ ―

■北海道を知る歴史発見の旅シリーズ

① 6 月 26 日(土) 三角山～大倉山登山・昼食会コース (9:00 集合 ～ 14:30)

＜ノーブルズ高校生グループと一緒に登山・昼食交流会＞

② 8 月 7 日(土) 旧簾舞通行屋・サッポロピリカコタン・美泉定山歴史解説コース

③ 9 月 25 日(土) 百年記念塔・開拓記念館・開拓の村歴史解説コース

■2010 年 姉妹提携 20 周年記念事業 (発信事業)

① 2010「英語でガイドしよう講座」＜5 月 ～ 2 月＞ 10 回

② 高等学校 E メール国際交流プログラム推進

③ 2010 年 マサチューセッツ州訪問団派遣＜7 月 14 日(水)～21 日(水)＞8 日間

＜北海道マサチューセッツ州姉妹提携 20 周年記念＞

■2010 年 国際交流事業 (受入事業)

① 4 月 13 日(水)～17 日(土) コンコードカーライル高校ブラスバンド(101 名)来札

*4 月 15 日(木) 札幌白石高校・コンコードカーライル高校ブラスバンド 合同演奏会

*4 月 16 日(金) 高校生を中心とした国際交流会

② 6 月 19 日(土)～7 月 7 日(水) ノーブルズ高校短期交換留学プログラム(12 名)来札

*＜(6 月 26 日)北海道を知る歴史発見の旅シリーズ・三角山～大倉山コース＞

③ 6 月 30 日(水)～7 月 5 日(月) ファイブカレッジセンター北海道教育視察団(22 名)来札

*＜(7 月 4 日) 国際交流ランチセミナー レストラン「エルム」＞

「英語でガイドしよう講座」 がスタートしました!!

— 国際交流に関する学習と実践英会話の練習教室 —

2010 年 5 月開始～2011 年 2 月

昨年、北海道・マサチューセッツ州の姉妹提携 20 周年を記念して、第 1 期「高校生のための通訳ガイド養成講座」がスタートしましたが、今年度は、第 2 期「英語でガイドしよう講座」を実施します。今年度は、高校生のほかにも、学習意欲旺盛な中学生や大学生・一般の方も一緒に楽しく学び、これからの国際交流の場面で即戦力となる、10 回コースの実践的な「英会話練習」を小グループで実施したいと考えています。この講座は、国際交流の知識と札幌の文化・歴史を踏まえた外国人の案内や交流のための実践英会話を目標として、継続的に開催します。

期日 毎月 1 回（～2 回） 土曜日 10:00 ～ 12:00

会場 札幌市社会福祉総合センター 3 階会議室

（札幌市中央区大通西 19 丁目）

内容 基本的な例文による英会話練習を主とするプログラム

外国人講師 Mr. Stephen Hasbrouck（米国人）＜スティーブン・ハズブルック＞

（日本人講師） 新藤五郎（Mr. Goro Shindo） 岩崎修子（Ms. Nobuko Iwasaki）

長沼敦子（Ms. Atsuko Naganuma） 與澤宏恵（Ms. Hiroe Yozawa）

中垣正史（Mr. Masafumi Nakagaki） 他

テキスト 日本人スタッフによる自主作成（逐次編集）

参考図書 「PERAPERA ホッカイドー」—英語で北海道をガイドする本—

遠藤昌子 アマダ・ハロー 共著 北海道新聞社発行 1,470 円

2010 年度予定 <予定は追加・変更する場合があります>

第 1 回（5 月 22 日）（開講式・講師紹介・講座の説明）

自己紹介、歓迎挨拶

第 2 回（6 月 19 日） 三角山・大倉山、ジンギスカン

第 3 回（7 月 31 日） 時計台、赤れんが

第 4 回（8 月 21 日） TV 塔 大通公園 地下街、北海道神宮

第 5 回（9 月 18 日） 食べ物（かに、ラーメン、回転寿司、スイーツ）

第 6 回（10 月 23 日） 北海道の歴史、アイヌの歴史・文化

第 7 回（11 月 20 日） 百円ショップ、ヨドバシカメラ 北海道の冬

第 8 回（12 月 18 日） ホワイトイルミネーション、温泉 お正月

第 9 回（1 月 15 日） 雪まつり バレンタインデー

第 10 回（2 月 19 日） 復習まとめ、発表

* 他に、サッポロファクトリー・札幌ビール工場 など

* 随時、北海道の歴史・文化解説

北海道・マサチューセッツ州姉妹提携 20 周年記念 訪問団詳細情報

① コンコード・カーライル高校ブラスバンド 来札日程詳細

<2010, 4, 13(火)~4, 17(土) 生徒 88+先生 13=101 名 >

4月13日(火) 19:55 新千歳空港着 → 21:30 札幌国際ユースホテル着(泊)

<豊平区6条6丁目5-35 >

4月14日(水) 9:15 バス出発 テレビ塔・大通公園(1-12丁目)を車窓見学
黒田清隆とホーレス・ケブロン銅像見学・時計台見学など

10:30 知事表敬訪問(赤れんが庁舎2階)

北海道知事挨拶・マ州協会会長歓迎挨拶

団長挨拶・マサチューセッツ州知事メッセージ

11:00 赤れんが庁舎見学(「弁当」飲物をバスに積み込む)

12:00 バス出発→ 江別市民会館へ移動<江別市高砂町6 >

13:00 札幌白石高校との合同リハーサル

16:30 バス出発→ 17:30 札幌国際ユースホテルへ

ホストファミリー面会(生徒ホームステイ1泊目~)

4月15日(木) 9:00 生徒札幌市民ホール集合(準備・午前午後リハーサル)

(会場:札幌市民ホール) <中央区北1条西1丁目 >

17:30 市民ホール開場(生徒・一般・来賓など入場)

18:30 姉妹提携20周年記念 合同演奏会(18:30-20:30)

合同演奏会は、1998年4月コンコードカーライル高校(CCHS)来札を第1回として、2003年1月札幌白石高校(SSHS)訪米、2004年4月CCHS来札、2007年4月CCHS来札、2008年3月SSHS訪米、そして今回2010年4月CCHS来札という交流の歴史があります。毎回、“Music has no border!!”の感動で、スタンディングオベーションの拍手喝采が鳴り止みません。生徒たちは、ホームステイ交流も深めています。



札幌市民ホールでの日米合同演奏会(6回目のジョイントコンサート)



会場の拍手に応える：鈴木恭輔、アル・デンティーノ、杉村光雄の各指揮者

4月16日(金) 9:00 バス出発 市内観光：開拓の村・(昼食)・札幌駅周辺ショッピング
18:00 バス移動 「高校生を中心とした国際交流会」(18:30 ～ 20:00)
(会場：札幌市社会福祉総合センター4階・大研修室)

＜中央区大通西19丁目＞ (生徒ホームステイ3泊目)

「高校生を中心とした国際交流会」は、札幌市内全域の各高校の生徒が大勢参加して、総勢約350名で会場は熱気につつまれ、テーブル毎に飲食を共にしながら交流を深めました。
堅苦しいセレモニーなし。日本舞踊、石狩翔陽高校・CCHS の日米生徒による和太鼓演奏のアトラクションなどもあり、はじめての高校生を主役にした交流の広場となりました。

4月17日(土) 午前 ホストファミリーと楽しむ時間(観光・食事など)

12:00 生徒全員ユースホステル集合(12:30 バス七飯町へ出発)

② ノーブルズ高校 短期交換留学プログラム 来札日程詳細

＜ 2010, 6, 19(土)～7, 7(水) 19日間 生徒10名+引率教師2名=12名 ＞

6月19日(土) 20:25 新千歳空港着(JL3047) →札幌国際情報高校ホストファミリー出迎え
引率教師：札幌国際ユースホステル泊

＜豊平区豊平6条6丁目＞

6月21日(月) 札幌国際情報高校短期交換留学 登校開始 2週間～7月5日(月)＞
＜北区新川717-1＞

6月23日(水) 14:30～15:00 北海道知事表敬訪問(先生2名・生徒代表2名)

＜ 16:00～ 札幌国際情報高校留学生歓迎会(生徒会主催) ＞

6月25日(金) 札幌市立福住小学校訪問(10:30～13:30)＜豊平区福住3条5丁目＞

6月26日(土) 三角山～大倉山コース登山・昼食会(北海道を知る歴史発見の旅シリーズ)



三角山頂上にて：ノーブルズ高校生と参加者：最前列右グラハム先生(合計 29 名)

- 6 月 27 日(日) ノーブルズ校外研修 午後 札幌ドーム野球観戦
 6 月 30 日(水) 午後 人形浄瑠璃教室(14:00～15:30)「やまびこ座」＜北 2 7, 東 15＞
 7 月 2 日(金) 学校祭(オープニング出演) ＜ ～ 7 月 4 日(日) ＞
 7 月 4 日(日) 学校祭参加(ノーブルズ展示・発表)
 7 月 5 日(月) (大掃除) 最終登校日
 7 月 6 日(火) (代 休) 一日研修バスツアー(ホストファミリーと)
 7 月 7 日(水) (代 休) 12:00 新千歳空港発(JL3047) → 京都へ

ノーブルズ高校と札幌国際情報高校の短期交換留学プログラムは、2001 年にスタートしました。ノーブルズ高校は、隔年ごとのプログラムで来札、今回は 5 回目になります。
 札幌国際情報高校の短期留学及びホームステイを中心として、当協会のお世話で、小学校訪問、人形浄瑠璃教室、三角山～大倉山登山なども実施しました。今回は姉妹提携 20 周年として、道庁表敬訪問もしました。

③ ファイブカレッジセンター 北海道教育視察団 来札日程詳細

＜2010, 6, 30(水)～7, 5(月)6 日間 ニューイングランド各州の先生方 20 名+引率者 2 名=22 名＞
 —マサチューセッツ州・コネカット州・ロードアイランド州・メイン州・ニューハンプシャー州・ニューヨーク州・ジョージア州—

- 6 月 30 日(水) 20:45 新千歳空港着(NH2155) → 22:00 頃 ホテルオークラ着(泊)
 ＜中央区南 1 条西 5 丁目＞
 7 月 1 日(木) 7:30 朝食
 9:00 オリエンテーション(北海道・マサチューセッツ協会 中垣)
 午前 北海道知事表敬訪問(10:30～11:00) 赤れんが庁舎見学



赤れんが庁舎前にて：ファイブカレッジセンターグループ全員（左端 中垣）

- (昼食) 回転寿司昼食(札幌駅エリア)・札幌市内見学
- 16:00 「サッポロビール博物館」見学 <東区北7条東9丁目>
- 18:00 夕食会 サッポロビール園でジンギスカン
- 7月2日(金) 9:30 バス出発 札幌市立真栄中学校訪問 (10:30~13:20)
- (昼食) <清田区美しが丘1条1丁目>
- 13:00 バス出発 札幌開成高等学校訪問 (14:00~16:00)
- <東区北22条東21丁目>
- 17:30 ホストファミリー面会 (3階アセンションホール)
- (ホームステイ1泊2日)
- 7月3日(土) 終日 ホストファミリーと過ごし、夜夕食後 ホテルへ戻る
- 7月4日(日) 8:45→(バス) 札幌市アイヌ文化交流センター見学 <南区小金湯>
- 9:00 見学と講義①「アイヌ民族の歴史と文化について」(9:00-10:50)
- <アイヌ文化振興・研究推進機構 島崎 直美専門員>
- 12:00 OMAS「国際交流ランチセミナー」<北大構内レストラン「エルム」>
- 15:00 英語の講義②「日本人の日常生活と火山について」(16:30)
- <岡田 弘教授 北大学術交流会館 第1会議室>
- 7月5日(月) 6:30 バス出発 → 新千歳空港へ

米国マサチューセッツ州ノーサンプトンにあるファイブカレッジセンター主催の“東アジア研究プログラム”の北海道教育視察団一行、22名の先生方をお迎えしました。学校訪問、アイヌ民族の歴史と文化・有珠火山と日本人の生活などのレクチャー、ホームステイ、国際交流ランチセミナー・昼食会などをお世話しました。大変礼儀正しい勉強熱心な先生方との交流を楽しみました。

―定山溪温泉の開祖― 知られざる 美泉 定山(1805～1877) の生涯

「美泉定山」(みいずみじょうざん)は、文化2年(1805)1月7日、備前国(岡山県)赤坂村周匝村黒本の池田藩主祈祷所の繁昌院妙音寺6代目宮崎行辨の次男として生まれる。幼名「常三」。幼くして仏門に入り、文政4年(1821)、17歳で、現在の倉敷市にある五流尊龍院の道場に入山、滝に打たれ、断食の荒行に耐えて5年間の修行を積み、名を「常山」と改める。さらに、真言密教の奥義を極めるために、弘法大師の高野山できびしい修行を重ねて修験僧となった常山は、いよいよ霊山霊地を遍歴する諸国行脚の旅に出る。

北へ北へと向かい、仙台にしばらく滞在の後、山形県の出羽三山(月山・羽黒山・湯殿山)に籠もり、続いて秋田太平山の前岳・中岳・奥岳の三峰を踏破した後、嘉永5年(1852)津軽の三厩にたどり着く。いよいよ蝦夷地に渡る決意を固め、ちょうど立ち寄った御用船に身を任せて竜飛岬を越え、嘉永6年(1853)、蝦夷地松前に渡る。このとき、年齢48歳。

蝦夷地に渡った常山は、先ず、松前藩の祈祷所、海渡山阿吶寺に入る。しかし、松前にはあまり長くともどまっておらず、さらに蝦夷地巡錫の旅がはじまる。安政元年(1854)、久遠(今の大成町)の太田山大権現に籠もること5年、ここでは、名を「宗健」と改め別当(住職)を務め、「太田の法印さま」と村びとから崇拝されたといわれる。

＜蝦夷地探検の松浦武四郎が、安政3年(1856)、太田山で備前生まれの僧「宗健」と会い、新道開発について語り合ったという記述(「西蝦夷日誌」)がある。武四郎39歳。常山51歳。＞

文久元年(1861)、常山は、さらに海岸沿いに北上して、船路で神威岬、積丹岬を回り、小樽内の張碓村にたどり着く。常山は、張碓村で、太田山時代の知人野村治兵衛のもとに腰を落ち着け、真摯に教化に努める。漁業円満・海上安全の祈祷に熱心で、その徳望は村内で評判となる。およそ5年滞在、アイヌの案内で温泉の出る場所を探索して、「湯の澤鉱泉」を発見、葛山勇助や漁民の応援を得て、浴場を建て経営をはじめる。知人野村治兵衛ゆかりの女を迎えて共に鉱泉経営に当たり、また治兵衛の二女ツルを養女にする。常山は、歌・俳諧・絵画・彫刻にも秀でており、武道もたしなんでいて、その徳望はたちまち小樽内一帯の評判になったといわれる。

その後、常山がアイヌの若者に教えられて、現在の定山溪温泉を発見したのは、慶応2年(1866)。この温泉に住んで、ここを永住の地と定める。61歳。この地「定山溪」に定住した最初の人といわれる。常山はこの地こそ、自分がほんとうに捜し求めていた地であるとして、背後の山を「常山」と名づけて道場とし、毎朝、山野をめぐって天地に祈り、温泉場の開発に努めた。明治3年(1870)開拓使初代判官島義勇に道路開削を懇請し着工の約束を得るも、島はわずか4ヶ月で解任。後任の岩村通俊は常山の案内で温泉場に赴き、その素晴らしさに感動して、明治4年(1871)常山を「湯守」に任命し、浴場・宿泊所を建て新しい橋を架けた。

こうして常山は、扶持米(給料)を給される身分となり、初志がやっと実現する。常山は、これまでの苦難に満ちた巡錫の長い道のりを振り返り、現在の幸せな思いを橋に託して「回春橋」(現在の「月見橋」の前身)と名づけた。また、常山はこの年、平岸村開拓に入植した旧伊達藩士ゆかりのキンという41歳の女性を娶り、雇い人佐藤伊勢造夫婦と共に本格的に温泉場の経営にあたる。

この年明治4年(1871)10月、虻田―札幌間の本願寺道路が完成し、道路検分に來た東久世開拓使

長官がこの温泉に立ち寄り、常山の温泉場開発の信念と熱意に心打たれ、常山の名をとって「この地を常山溪とせよ」と命じた。（これが後に、「定山溪」となる。）また後に、岩村通俊は、野生の鹿が傷を癒しに湯に浸かっていたことを常山から知らされ、この湯場を「鹿の湯」と名づけた。

常山は、湯守として温泉場の経営を続けるが、生活はきびしく、明治6年(1873)夏の大洪水で、回春橋は流され、本願寺街道も損壊してしまう。明治7年(1874)7月には、後任の開拓使大判官松本十郎の財政引締め政策により湯守廃止となる。常山は、自力できびしい温泉経営の決意をする。（この時に、新たな姓名「美泉定山」を名乗る）

明治9年(1876)、定山は、温泉開発の一策として小樽―定山溪間の山道開削に努力するも、資金難のために断念している。

翌明治10年(1877)11月、定山は、妻に行き先も告げず突然行方不明になり、還ることはなかった。その最期は長く不明であったが、昭和54年(1979)秋、小樽の正法寺の過去帳に、「明治十年(一八七七)十一月四日死亡 美泉定山法印」という戒名の記録が見つまっている。72歳の生涯。これによると、定山は、行脚中に、突然心臓発作かなにかで倒れ、死後10数日を経て張碓の村人に発見されて、舟で正法寺に運ばれたたようで、孤独な死と考えられる。

さて、定山の没後、未亡人キンは、明治13年(1880)温泉経営の一切を佐藤伊勢造に譲渡して、平岸村に帰り、養子を迎えて美泉家継承に努めたといわれる。

「美泉定山」を記念するもの

大正5年(1916)曹洞宗定山溪説教所が定山を開基として開山され、昭和18年(1943)移設建立。昭和21年(1946)12月、「定山寺」と寺号を改める。昭和3年(1928)定山50回忌に、「温泉開祖・美泉定山」の碑を建立。続いて昭和9年(1934)、前北大総長佐藤昌介の揮毫による定山の碑を定山寺境内に建立している。また、札幌出身の彫刻家木村恵保が、定山坐像を制作して定山寺に寄進している。

昭和25年(1950)には、定山溪神社(明治44年(1911)8月6日創立)に、祭神として合祀される。昭和41年(1966)3月、定山寺檀家総代(小須田多鶴代)が夫の一周忌に因み、「開祖美泉定山記念碑」を建立している。碑右横面に定山和尚の略歴、碑左横面には曹洞宗大徳山定山寺創立誌が刻まれている。

昭和62年(1987)、定山没後110年にあたり、定山溪温泉繁栄の礎を築いた偉業を讃えて定山溪ホテル前に「美泉定山銅像」が建てられる。また平成17年(2005)には、定山生誕100年を記念して「定山源泉公園」が造成されて「美泉定山坐像」が建立される。

＊

温泉の泉質・効能など 定山溪温泉は、豊平川の河流に沿って数十箇所の湧出口から自噴している。この温泉は、定山溪の背後に大きく広がる無意根山系の地下水が数十年の年月をかけて地下2,000mほどにあるマグマの熱により加熱されて、この地域の断層にそって噴出したものと考えられる。湯は無色透明(ナトリウム塩化物泉)70～90度で、一般的には「弱塩泉」と呼ばれる。神経痛、リュウマチ、創傷に効能ありといわれる。

参考資料	☐ 「定山溪温泉」さっぽろ文庫 59	☐ 「定山溪温泉のあゆみ」(定山溪観光協会)
	☐ 定山溪郷土博物館資料	☐ 「ほっかいどう百年物語」(STVラジオ編・中西出版)
	☐ 「南区開拓夜話」(札幌市南区30周年記念誌)	☐ インターネット資料 など

事務局短信

平成 22 年度 北海道・マサチューセッツ協会 理事会・総会 報告

平成 22 年 4 月 28 日(水)午後、道庁別館地下 1 階会議室で、今年度理事会・総会を開催しました。森本会長の開会挨拶、続いて、荒川裕生北海道知事室長およびジョン・テイラー在札幌米国総領事館領事の祝辞をいただきました。今年度が、北海道・マサチューセッツ州姉妹提携 20 周年記念の年にあたるということで、これまでの交流の実績を振り返り、今後の国際交流への期待をこめたお話をいただきました。理事会・総会は、平成 21 年度事業報告・一般会計決算報告、平成 22 年度事業計画・一般会計予算書が承認されました。予算がきわめてきびしい状況にあり、一層の経費節減と事業縮小を強いられています。今年度は、役員改選の年ですが、各団体の役員交代が決定して、当協会の役員名簿が確定しだい、まず、ホームページで公表いたします。

元マサチューセッツ州立大学長・ボストン日本協会会長 ディヴィッド・ナップ先生ご逝去

かねて療養中の元マサチューセッツ州立大学長・ボストン日本協会会長の ディヴィッド・ナップ先生が、4 月 13 日ご逝去されました。享年 82 歳でした。先生は、元北海道大学長有江幹男先生と一緒に北海道・マサチューセッツ州の姉妹提携の基礎をつくられた方で、そのご功績は偉大です。ここに皆様とともに謹んでご冥福をお祈りします。

2010 姉妹提携 20 周年記念セレモニー 行われる <ボストン 7 月 16 日>

去る 7 月 16 日、ボストンのマサチューセッツ州議会議事堂で、北海道・マサチューセッツ州姉妹提携 20 周年のセレモニー開催。ウィルソン UMASS 総長、辻在ボストン日本国総領事館総領事、マレイ副知事などの挨拶があり、その後、高井北海道副知事とマレイ マサチューセッツ州副知事により、姉妹交流促進宣言書再調印が行われました。

お昼には、ボストンの UMASS 大学クラブで、ウィルソン UMASS 総長、スー・ルート マサチューセッツ北海道協会会長共催の昼食会が開催され、デュカキス元州知事夫人、ウィルソン総長、カーマ州国際貿易投資局長、ルート会長、ケサダ共同会長、辻総領事、高井副知事、伊藤義郎北海道日米協会会長などが出席されました。

スー・ルート会長からは、ウィリアム・ホーラーの子孫夫妻、ウィリアム・ブルックス直系の孫夫妻などが紹介され、また高井副知事に、UMASS アマースト校の教会の写真が贈呈されました。

2010 年 マサチューセッツ州訪問団の派遣……中止になりました！

かねて、2010 年 北海道・マサチューセッツ州姉妹提携 20 周年記念 マサチューセッツ州訪問団派遣(7 月 14 日～21 日)の参加者を募集していましたが、今回は、参加申込者が少なく、旅行会社との契約条件(催行人数と旅行費用)により実施困難となり、残念ながら中止になりました。

新入会員紹介(2010 年 3 月 15 日以降)：敬称略

<個人会員> 伊藤 倭文子 米通 みよし 富原 亮 池田 美由紀 広瀬 香

姉妹提携 20 周年記念行事 協賛金等協力者(2010 年 3 月 15 日以降)

杉野目 康子 成田 貞子 原田 洋平 岩佐 栄子 森田 喜代子

<敬称略：ご協力ありがとうございました。>

